

<p>東海市立明倫小学校</p> <p>住所 東海市荒尾町土取1の1</p> <p>電話番号 052-603-2011 児童 219名</p> <p>校長名 鈴木 悟志 11学級 (特支4)</p>	<p>○ 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校訓「夢・汗・心」を柱として、「夢にあふれた やさしい心と さわやかな汗」を目指して、「知・徳・体」の調和のとれた児童を育成する。 <p>○ 地域の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内で一番児童数の少ない小規模校である。校内及び近隣には緑が多く、自然豊かな環境に恵まれている。市街化調整区域には一戸建て住宅が増えているが、団地・社宅等では子育て世代の世帯が少なくなっている。 <p style="text-align: right;">◎…10%以上増 ○…5%以上の増 △…5%以上の減</p>
--	---

中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】令和8年1月22日	来年度の改善策 (誰が何をどうする)
知	<ul style="list-style-type: none"> 土台となる基礎学力の向上を図る。 対話的な活動・伝え合いの活動を継続する。 学習の過程を振り返り、何を学んだかを確認させる。 仲間の考えや知識のインプットとアウトプットを繰り返し、学びを深めさせる。 	<p>○授業に関する項目</p> <p>児童5「授業の内容は分かりやすい」</p> <p>教師4「伝え合う活動を重視し、分かる授業を実践している」</p> <p>教師11「子どもは、授業の内容を理解している」</p> <p>保護者6「学校(担任・教科担任)は分かりやすい授業をしている」</p> <p>○基礎学力向上に関する項目</p> <p>児童6「授業の最後に振り返りをする事で、授業で学んだことが身につけてきている」</p> <p>教師7「毎時の授業における振り返りの実践によって、基礎学力定着の成果を上げている」</p> <p>保護者13「家庭学習の習慣を身に付けさせている」</p>	<p>○分かりやすい授業について</p> <p>児童 90.5% → 91.5%</p> <p>教師 94.7% → 100.0% ○</p> <p>教師 94.7% → 85.7% △</p> <p>保護者 79.3% → 78.8%</p> <p>・教師は分かりやすい授業を心がけているが、児童に理解させるのに苦労している。</p> <p>・教師は伝え合う活動を多く取り入れ、他者の考えを知り、思考の広がりや深まりが見られた。</p> <p>○基礎学力向上の取組について</p> <p>児童 71.6% → 71.3%</p> <p>教師 94.7% → 100.0% ○</p> <p>保護者 75.4% → 69.7% △</p> <p>・本時の学びのポイントを最後に押さえる意識が定着している。</p> <p>・児童が自分の学びの成果と課題をつかみやすい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 思考の広がりや深まりを実現できる対話的な学びについて、授業研究を続けていく。 児童の文章読解力や自分の考えを論理的に組み立てる力を高めるために、授業の課題設定や教師の発問の工夫をしていく。 児童の主体的な学びが行われるように、児童自身が自分の課題を設定し、手だてを探りながら他者と協力して解決に辿り着くという探究的な学びの形を取り入れていく。 適切な課題に基づいた家庭学習を通じて、学びの土台となる基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 明倫小の1学年1学級では、ほとんどが35人近くの学級であり、担任一人で見るのは大変なので、誰かサポートに入れるとよい。 高学年になるほど、授業態度がよく熱心に取り組む様子が見られる。 低学年は授業によっては騒がしくなることがあり、授業規律を徹底する必要がある。めりはりが大切である。 授業に集中できない児童がいると、なかなか授業が進まず、担任の先生は苦労していた。 家庭学習が少ないと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教務主任や現職教育主任を中心に、一斉授業だけでなく、個別指導の時間や教科横断の探究の時間を設けるなど、全教員が現職教育で学び、実践していく。 各担任が、教師の話や児童の発言を聞く姿勢や態度を育てる。 各担任が、学校のルールを確認する。 各担任が、そのときに応じた学級目標を立てさせ、学級全体で守らせる。 全教員が学年の応じた家庭学習の分量について検討し、自主学習で個人差を調整することも併せて検討する。
徳	<ul style="list-style-type: none"> 明るいあいさつ等、人とつながる行いを大切にするとともに、自他の命を大切にし、思いやりをもって行動しようとする心豊かな児童の育成に努める。 	<p>○あいさつに関する項目</p> <p>児童16「友達や先生、地域の人にあいさつをしている」</p> <p>教師14「家族・地域の人にあいさつすることを指導している」</p> <p>地域7「本校の子どもたちは、地域であいさつがよくできている」</p> <p>○優しさ・思いやりの項目</p> <p>児童8「困ったことがあったとき、相談したい先生がいる」</p> <p>児童13「他の人をいやな気持ちにさせないようにしている」</p> <p>児童14「困っている友達がいたら、助けている」</p> <p>教師20「いじめ防止に努め、日頃から子どもの変化(変容ぶり)を見逃さないようにしている」</p> <p>保護者11「明倫小学校子どものいじめ防止基本方針があることを知っている」</p>	<p>○あいさつについて</p> <p>児童 86.3% → 90.5%</p> <p>教師 94.7% → 100.0% ○</p> <p>地域 72.2% → 74.0%</p> <p>・具体的にその都度指導したことで、数値が上がリ、児童の意欲は前向きになった。</p> <p>○いじめに関する項目</p> <p>児童 65.2% → 51.0% △</p> <p>児童 96.9% → 92.5%</p> <p>児童 91.6% → 89.4%</p> <p>教師 100.0% → 100.0%</p> <p>保護者 77.7% → 75.8%</p> <p>・SCやSSWとの連携強化、校内の情報交換や対策協議は、より充実している。</p> <p>・児童が相談しやすい先生が減少した。困っている友達を助ける数値も減少した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、挨拶や感謝の意を表す具体的な場面の指導や情操教育に取り組む。 日常の場面やあいさつ運動で教師や保護者など、周りの大人があるべき姿を見せていく。 担任、養護教諭、SC、SSWなど児童が気軽に相談できる体制づくりと時間の確保を、より充実させる。 情報交換会議や対策会議を、率直な意見を出せる場とする。 年2回のいじめアンケートを始め、日頃から児童の人間関係や言動を注意深く観察し、組織的に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でもあいさつする習慣の協力をお願いしたい。 相談の先生がいればよいわけではない、馴れ合いがよいわけではないので、学校で慎重に検討してほしい。アンケートを必ずしも鶴呑みにしないでほしい。 登下校の見守り活動をして気付いたことは、先生方にできるだけ伝えて対応していただいている。 児童同士のトラブルについて、さまざまなことが起こると思うが、当事者はもちろんのこと、当事者以外のケアもおこなってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が、良好な人間関係を築く基本として、挨拶や感謝の意を示す手本となり、言葉や振る舞い方を丁寧に指導する。 児童自身が挨拶をされたり、感謝の言葉をかけられたりする場面を、教師が意図的に設けることにより、児童に心地よさを味わわせる。 担任、養護教諭、生徒指導主任、SC、SSW、市こども課、市社会福祉協議会などとの連携を一層強化し、適切な見立てや分析に基づいた対応を、全校体制で行えるようにする。
体	<ul style="list-style-type: none"> 汗をかくことを惜しまず、進んで体を動かす児童を育てる。 	<p>○外遊びに関する項目</p> <p>児童18「放課は、外で元気よく遊んでいる」</p> <p>○食育に関する項目</p> <p>児童22「栄養バランスを考えて、好き嫌いなく何でも食べている」</p> <p>教師29「給食の時間や授業で、食育を意識した指導をしている」</p> <p>保護者16「学校が取り組む食育に関心がある」</p>	<p>○外遊びについて</p> <p>児童 52.6% → 54.2%</p> <p>・猛暑により熱中症対策で外遊びや体育的活動を制限したが、外で遊べるときには多くの児童が遊んでいた。</p> <p>○健康な体づくりのための、食への関心について</p> <p>児童 69.5% → 80.9% ◎</p> <p>教師 100.0% → 100.0%</p> <p>保護者 75.4% → 80.3%</p> <p>・栄養教諭や養護教諭や保健給食委員を中心とした取組で、児童の関心や実践意欲を高めている。</p> <p>・学校保健委員会で野菜摂取の大切さを広めた成果が出た。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体育授業や体育的行事を、児童の体力・運動能力の向上につなげる。 児童会を中心としたペア遊びや運動週間の取組を継続する。 本校の「食に関する指導の全体計画」の下、各教科や領域、行事などにおいて、食育の取組を充実させ、児童の意識を高めることから、家庭の実践につなげていく。 体育館の空調設備を活用し、猛暑期間中に体育的行事やなかよし活動を体育館で設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後は体育館の空調を利用して、暑い時期での体を動かす活動の機会を増やしてほしい。 下校後や休日など、公園で遊ぶ姿を見かけた。 体を動かしてエネルギーを発散することは、子どもにとって大切なことである。 業間体育等の効果的な取組が、今後一層重要になると思われる。 健康面では、食と睡眠は大切な要素である。今後も子どもの健康な体づくりについての活動を進めてほしい。 昨年度の評価を受け、今年度の学校保健委員会で睡眠について扱っていただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育主任を中心に、外での活動が困難な時期の体育科の授業や体育的行事について、体育館での活用を計画する。 栄養教諭を中心とした食育実践の推進を継続する。 養護教諭を中心とした学校保健委員会では、本校の今日的課題をテーマにし、計画する。 養護教諭を中心に保健だよりなどで健康な体づくりの啓発活動を進めていく。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校支援協議会と連携し、家庭・地域との絆を強化する。 地域の方々に学校教育に参画していただき、学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで児童を育てるとともに、開かれた学校づくりを進める。 	<p>○学校支援協議会に関する項目</p> <p>教師26「学校支援協議会の組織や活動について理解している」</p> <p>地域10「学習支援や花壇整備等、学校支援協議会が活動していることを知っている」</p> <p>○地域との連携に関する項目</p> <p>教師19「子どもたちに地域の行事やボランティア活動に参加するよう指導している」</p> <p>保護者19「学校からの協力依頼があれば、できるだけ協力をしたい」</p> <p>地域6「学校は、地域の活動や行事によく協力している」</p>	<p>○学校支援協議会の活動を理解</p> <p>教師 73.6% → 100.0% ◎</p> <p>地域 64.8% → 85.2% ◎</p> <p>・学校支援協議会がさまざまなところで浸透した。</p> <p>○ボランティア活動への参加</p> <p>教師 79.0% → 85.7% ○</p> <p>保護者 74.6% → 71.2%</p> <p>地域 72.2% → 81.5% ○</p> <p>・ボランティア活動のよさを理解し、学校と地域が協力できる体制ができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> PTAが子どもの様子を見ながら参加できるボランティア活動を増やす。 探求的な学びを通して、人と共働するよさを知り、目標が達成される経験を児童に積ませる。 これまでのつながりを大切にしながら、新たな人にも参加しやすい形を模索し、学校教育活動に関わる人を増やす。 HPや学校だよりを積極的に活用し、広報活動につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 夢や希望をもっている児童が多いので、今後もさまざまなところで活動し、私たち地域も一緒に育てていきたい。 朝の交通当番に来ない人が多くなった。忙しいとは思いますが、一緒に見守っていききたいと思うので、できるかぎり当番の方は出てきてほしい。 一部地域(特に学校の北側)で過疎化が進んでおり、地域連携ができない状態になっている。また、防犯及び防災上の観点からも機能していない状況があり、有事の際にとっても心配である。 洞ヶ山への通学路で夏にスズメバチが出ていた件は市へ報告したが、他の所有地のため対応が難しいとのことであった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教頭を中心に、HPのブログコーナー(明倫Today!!)やeメッセージの活用により、広報活動を充実させる。 教頭を中心に、地域の学校運営への関わりの在り方など、協働体制の再構築に向けて、地域と話し合いを進めていく。 各担任が日頃の学習活動などを通して、地域との関わりの大切さについて、児童に伝えていく。